

# ヘアカラーリングによるアレルギー ～毛染めによる皮膚障害～



近年、川崎市保健所中原支所にヘアカラーリング（毛染め）による皮膚障害の相談が複数件寄せられています。

皮膚障害の原因の多くはヘアカラーリング剤によるものであり、中でも**酸化染料**を主成分とする**酸化染毛剤**（ヘアカラー、ヘアダイ、白髪染め等）は、色持ちが良く最も広く使用されていますが、**アレルギー性接触皮膚炎**を引き起こしやすいことがわかっています。

アレルギー性接触皮膚炎の症状は、かゆみ、赤み、痛みなどですが、広範囲に広がり日常生活に支障をきたす場合もあります。

また、ヘアカラーリングの最中など早い段階で息苦しさ、意識喪失、じんましんなどの**アナフィラキシー**症状がおきることもあります。

これまで症状の出なかった人でも、繰り返しヘアカラーリングを行うことで発症することもあります。



[参照] 日本ヘアカラー工業会編「ヘアカラーリングABC」（日本ヘアカラー工業会、平成26年）



### ◆「ジアミン」とは

酸化染毛剤には、パラフェニレンジアミンや、トルエン-2,5-ジアミン等の酸化染料が含まれます。これらの染料はまとめて「ジアミン」と呼ばれることがあります。

ジアミン類は酸化染毛剤によるアレルギー性接触皮膚炎の原因の一つです。

ジアミン類の含まれないヘアカラーリング剤をノンジアミンカラー等と呼びますが、皮膚障害が100%起きないということではありません。また、似たような名前のヘアカラーリング剤でも、少量でも酸化染料が含まれればアレルギーが発症することがあるため注意が必要です。ハケやボウル、タオルやクロスなども専用のものを使いましょう。

髪に優しいイメージを持つ、似たような名前のヘアカラーリング剤でも必ず成分を確認しましょう。

ノンジアミンカラー  
ジアミンフリー  
ジアミンレスカラー

≠

オーガニックカラー  
ハーブカラー  
酵素カラー

### 【アレルギーを防ぐ対策】

- お客様に対し、過去のヘアカラーリングで異常を感じた経験の有無や施術当日の肌の健康状態を確認し、酸化染毛剤の使用に適するかどうかを確認しましょう。
- 酸化染毛剤を用いた施術が適さないお客様には、リスクを丁寧に説明し、酸化染毛剤以外のヘアカラーリング剤（染毛料等）を用いるなど代替案を提示しましょう。

### 【お客様への注意喚起】

- ヘアカラーリング剤を使用して、かゆみ、赤み、痛み等が現れたお客様には医療機関（皮膚科専門医等）の受診を勧めましょう。
- これまでにヘアカラーリングで異常を感じたことのない人でも、継続的に行ううちにアレルギー性接触皮膚炎になることがあります。
- 低年齢のうちに酸化染毛剤で毛染めを行い、酸化染料との接触回数が増えると、アレルギーのリスクが高まります。

### 理容師・美容師の皆様も

ヘアカラーリング剤によるアレルギーを引き起こさないために、シャンプー、ヘアカラーリングなどの作業の際に使い捨て手袋の着用や、こまめにハンドクリームを塗ることをおすすめします。

### 【お問合せ先】

川崎市中原区役所地域みまもり支援センター  
〔福祉事務所・保健所支所〕衛生課

電話 044-744-3271

